様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 ２２ 日現在

機関番号：２２４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ１２５３２

研究課題名（和文）精神障害者家族の子ども版「家族による家族学習会」プログラム開発と子どもの体験

研究課題名（英文）The development the version of "the Omotenashi-Family Experiences Learning Program" for the children with mentally-disordered parents and the children's experiences

研究代表者
横山　恵子（YOKOYAMA, Keiko）

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授

研究者番号：８０３２０６７０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、精神障害を持つ親に育てられた、成人した子ども版「家族学習会」プログラムを開発し、子どもの体験を明らかにすることを目的とした。 さらに、子どもの支援のあり方、セルフグループの誕生、社会的活動への可能性を検討した。その結果、2018年に「精神疾患の親をもつ子どもの会（こどもぴあ）」が東京で設立され、2020年度時点で、東京、大阪、札幌、福岡、沖縄に誕生した。COVID-19の影響で、移動や対面での実施が困難となり、オンラインでの集いや家族学習会を開催して活動している。

研究成果の学術的意義や社会的意義
子ども版「家族学習会」経験者をコアグループとして設立された、「精神疾患の親を持つ子どもの会（こどもぴあ）」は、誰にも話せず、社会で孤立する成人した子どもたちを繋ぎ、互いに語り合うことで、生きづらさからの回復を支援する役割を担っている。また、子どもたちの体験を社会に発信することで、ヤングケラーとしての子どもの現状、精神障害をもつ親への育児支援や子ども支援の必要性を社会に訴える存在となっている。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the study is to develop the children’s version of Family Experiences Learning Program which was originally aimed at the parents with mentally disordered children and, by using the new version, to clarify the children’s experiences. Moreover, I clarified how the support for the children should be, the process of forming their self group , and the possibilities of the social activities of the self group. The result is that the first association of the children with mentally-disordered parents, “KODOMO PEER”, was established. As of 2020, new associations were established in Osaka, Sapporo, Fukuoka, and Okinawa. The COVID-19 has made it impossible for the members to move and have face-to-face meeting. As a result, each association has meetings and study sessions online.

研究分野：精神看護学

キーワード：精神障害　家族　子ども　家族学習会　家族会

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

わが国では、2007 年度から、地域精神保健福祉機構（コンボ）が、統合失調症の「家族による家族学習会」という家族教育プログラムの開発・普及事業を開始、現在は、全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）が引き継ぎ、全国の精神障害者家族会（以下、家族会）への普及を図っている。これは、家族会の会員が担当者となり、家族会につながっていない家族に提供する、体系的な家族ピア教育プログラムである。「家族学習会」では家族のエンパワメントを目標とすることで、参加家族は仲間との共感の中で、実践的な知識が得られる。

精神障害者家族には親、配偶者、きょうだい、子どもと多様な立場の家族が存在するものの、家族会はこれまで親を中心として構成してきた現状がある。特に、子どもの実態は社会に知られておらず、当然のことながら、子どもへの支援はほとんどなされていない。

申請者は、家族学習会の開発・普及事業に初年度から関わり、2015 年度からは子どもの立場の「家族学習会」を試行してきた。しかし、子ども版テキストやプログラムは未だ確立されておらず、効果的なプログラムの実施には至っていない。子ども版テキストや「子ども版『家族学習会』（以下、家族学習会）」プログラムの開発が必要とされていると考える。

２．研究の目的

本研究は、精神障害をもつ親に育てられた、子ども版「家族学習会」プログラムを開発し、「家族学習会」での子どもの体験を明らかにすることを目的とする。さらに、子どもの支援のあり方、「家族学習会」経験者をコアとしたセルフグループの誕生、体験を活かした社会的活動への可能性を検討することを目的とする。

３．研究の方法

研究デザインは質的帰納的研究であり、方法論は、参加観察とインタビューである。

平成 27・28 年度に実施した「家族学習会」の経験者を協力者とする。「家族学習会セミナー」を開催、参加希望者を募り、「家族学習会」を実施する。「家族学習会」には継続的に参加観察すると共に、「家族学習会」の開始及び終了時にアンケートを実施する。また、終了後にグループインタビューを行い、「家族学習会」での子どもの体験を分析する。プログラムの修正は 2 年かけて行い、テキストに必要な要素を抽出し、協力者とともにテキストを作成、プログラム内容を検討する。3 年目は完成版として普及を目指す。さらに、「家族学習会」経験者をコアグループとして、そのコアグループの発展過程を参加観察しながら支援する。データは家族支援の研究者とともに継続的に分析し、分析結果の信頼性、妥当性を確保する。

４．研究成果

（１）子ども版「家族学習会」の開催、子ども版オリジナルテキストの作成

2017（平成 29）年度は、平成 27・28 年度に実施した家族学習会の経験者 10 名に、研究協力者として依頼、子ども版家族学習会（以下、家族学習会）を 2 クール開催した。翌年に、大阪での家族学習会を開催する準備として、近畿地方に在住する 2 名の家族を招き、参加者として参加してもらった。

2018（平成 30）年度は、平成 29 年度に実施した家族学習会の経験者 6 名に、研究協力者として依頼、東京で家族学習会を 1 クール開催した。また、大阪府精神障害者家族会連合会の協力を得て、家族学習会セミナーを大阪で開催、セミナー参加者を対象に、昨年度の東京での参加者 2 名が担当者となり、家族学習会を開催した。2019 年 2 月には、札幌において、家族学習

会を開催した。北海道の地域性を配慮し、東京のメンバー3 名が担当者として出向き、２日間の集中型の家族学習会として開催した。２日間の集中型での実施に関しては、アンケートやインタビュー結果から、通常の開催と同様の効果が得られたと評価した。

2019（令和 1）年度は、東京にて１クール開催、大阪で１クール開催した。家族学習会終了時に、グループインタビューを行い、家族学習会で得たこと、進行方法やオリジナルテキストに関する意見を尋ね、プログラムの適切性を確認するとともに、得られた意見から継続してテキストの修正を行った。2019 年度に、子ども版のテキストは完成版として、印刷業者に依頼して冊子とした。

2020（令和 2）年度は、コロナ禍のため、移動や対面が難しくなり、家族学習会の開催は一時中止となった。そこで、オンラインに変更して、子ども版担当者研修会を初めて開催した。また、2021（令和 3）年度は、東京、福岡、 札幌、沖縄メンバーとともに、地域を超えた子ども版家族学習会をオンライン開催する予定である。オンラインは、これまで参加が難しかった遠方の者が参加できるなどのメリットも大きい。さらに、交通費の削減や、担当者が地域を超えた混合チームで担当でき、新たな活動の広がりになることが、予想される。

（２） 「精神疾患の親をもつ子どもの会（愛称：こどもぴあ）」設立と全国への広がり

2017（平成 29）年度までに家族学習会を経験した 20 人程がコアメンバーとなり、20 代メンバーが代表・副代表として、2018（平成 30）年 1 月に、「精神疾患の親をもつ子どもの会（愛称：こどもぴあ）」を設立した。代表・副代表は、20 代メンバーが担った。

2018（平成 30）年度は、大阪で家族学習会を開催、終了後に、地元のメンバーと参加者が、「こどもぴあ大阪」を設立した。 2019（平成 30）年 2 月には札幌で家族学習会を開催、終了後に、地元メンバーが、「こどもぴあ札幌」を正式に設立した。

2020（令和 2）年 8 月には、東京メンバーが支援し、沖縄の子どもたち、支援者が中心となって、オンラインでセミナーを開催、「こどもぴあ沖縄」を設立した。また、福岡においては、既存グループと支援者が中心となって、2019 年度に「こどもぴあ福岡」を設立した。メンバーを増やすため、2020 年度に東京・大阪メンバーが支援して、「家族学習会」を開催予定であったが、コロナ禍のため、中止となった。しかし、2021 年度には、オンラインにて、地域を超えた家族学習会を開催予定である。「こどもぴあ」は、 2020 年度時点で、東京、大阪、札幌、福岡、沖縄と、5 地域に誕生することとなった。

（３）「こどもぴあ」の体験を生かした活動

＜集いの開催＞

こどもぴあは、ホームページを立ち上げ、家族学習会だけでなく、不定期ながら、東京で年 5 回程度の集いの定期開催している。また、新たに設立された、大阪、札幌、福岡、沖縄でも、集いを開催している。しかし、2020 年度はコロナ禍のため一時期中断したものの、オンラインにて、東京、大阪で再開した。

＜配偶者会と連携した、未成年の子ども支援＞

2019 年 3 月から、「精神に障害がある人の配偶者・パートナーの支援を考える会（以下、配偶者会）」と連携し、配偶者と共に参加した、高学年の小学生から高校生の子どもたちとのグループを持っている。

以上のように、子ども版オリジナルテキストを用いて、子ども版「家族学習会」のプログラムを活用することで、「精神疾患の親をもつ子どもの会（こどもぴあ）」を設立することができた。

「こどもぴあ」は、誰にも話せず、社会で孤立する成人した子どもたちを繋ぎ、互いに語り合うことで、生きづらさからの回復を支援するセルフヘルプグループとして成長している。また、未成年の子ども支援も始めるとともに、自らの体験を社会に発信することで、精神障害をもつ親への育児支援や子ども支援の必要性を社会に訴える存在となっている。昨今、ヤングケラーとしての子どもたちが注目されており、「こどもぴあ」の活動はさらなる発展の可能性があると考える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 横山恵子	４．巻 134
２．論文標題 精神障害者のきょうだいへの支援の現状と課題	５．発行年 2019年
３．雑誌名 社会福祉研究	６．最初と最後の頁 50-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kageyama, M., Yokoyama, K., Horiai, Y.	４．巻 13
２．論文標題 Perceptions of Stages of Family Violence and their Perceived Solutions in Persons with Schizophrenia	５．発行年 2019年
３．雑誌名 The Open Nursing Journal	６．最初と最後の頁 156-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2174/1874434601913010156	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Masako Kageyama, Keiko Yokoyama, Yuichiro Horiai, Phyllis Solomon	４．巻 10
２．論文標題 Pilot Study of a Video-Based Educational Program to Reduce Family Violence for Parents of Adult Children with Schizophrenia	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Psychiatric Quarterly, Online ahead of print	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11126-020-09717-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 横山恵子	４．巻 2019
２．論文標題 精神障がい者のきょうだいの体験と「家族学習会」への取り組み	５．発行年 2019年
３．雑誌名 第49回（平成30年度）日本看護学会論文集　精神看護（2019）	６．最初と最後の頁 67-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 横山惠子，林裕栄，松本佳子	4．巻 2017
2．論文標題 地域生活支援センターにおける精神障がい者への支援の実態と課題	5．発行年 2017年
3．雑誌名 第47回日本看護学会論文集（精神看護）	6．最初と最後の頁 19-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 横山惠子	4．巻 44（8）
2．論文標題 超高齢社会とこれからの家族支援	5．発行年 2017年
3．雑誌名 精神科看護	6．最初と最後の頁 4-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 横山惠子	4．巻 8
2．論文標題 家族会の三本柱　分かち合い　学び合い　社会的活動	5．発行年 2017年
3．雑誌名 心の元気+	6．最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 横山惠子・荻野樹里・片山尚貴	4．巻 44（12）
2．論文標題 座談会　病をもつ親の子どもへのケア　家族を含めた包括的なケア	5．発行年 2017年
3．雑誌名 精神科看護	6．最初と最後の頁 18-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 横山恵子	４．巻 21（2）
２．論文標題 家族支援の現状と展望	５．発行年 2017年
３．雑誌名 精神障害とリハビリテーション	６．最初と最後の頁 41-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 横山恵子・蔭山正子
２．発表標題 精神疾患の親を持つ子ども版「家族学習会」の取り組みと子どもの体験
３．学会等名 第29回日本精神保健看護学会学術集会，名古屋
４．発表年 2019年

１．発表者名 横山恵子・林裕栄・藤田茂治・生山佳寿美・安保寛明
２．発表標題 地域ケアの充実をすすめる精神科事例検討会-事例提供者への効果と果たす役割-
３．学会等名 第50回日本看護学会（精神看護）学術集会，福井
４．発表年 2019年

１．発表者名 横山恵子（谷口恵子・前田直・横山恵子・蔭山正子・酒井佳永）
２．発表標題 成人した子どもの立場のピア活動（シンポジウム：“ 忘れられた介護者 ”から見た精神障がいと子ども虐待）
３．学会等名 日本子ども虐待防止学会 第25回学術集会，神戸
４．発表年 2019年

１．発表者名 横山恵子
２．発表標題 精神障がい者のきょうだいの体験と「家族学習会」への取り組み
３．学会等名 第49回日本看護学会―精神看護―学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 蔭山正子・横山恵子
２．発表標題 統合失調症の高EEとされる親の特徴と関連要因
３．学会等名 日本精神保健看護学会第28回学術集会・総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 横山恵子・蔭山正子
２．発表標題 ワークショップ「精神障がいを持つ親に育てられた子どもの困難とリカバリー」
３．学会等名 日本精神保健看護学会第28回学術集会・総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 横山恵子・林裕栄・松本佳子・藤田茂治
２．発表標題 専門職連携を進める精神地域ケア事例検討会の試み
３．学会等名 第48回日本看護学会（精神看護）学術集会
４．発表年 2017年

１．発表者名 木村諭志・横山恵子
２．発表標題 統合失調症の兄や姉を持つ思春期を共に過ごしたきょうだいの体験
３．学会等名 第48回日本看護学会（精神看護）学術集会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計6件

１．著者名 横山恵子、藤田茂治、安保寛明	４．発行年 2019年
２．出版社 精神看護出版	５．総ページ数 207
３．書名 精神科訪問看護のいろは-「よき隣人」から「仲間」へ	

１．著者名 横山恵子、蔭山正子、こどもぴあ	４．発行年 2019年
２．出版社 ペンコム	５．総ページ数 253
３．書名 静かなる変革者たち　精神障がいのある親に育てられ、成長して支援者に就いた子どもたちの語り	

１．著者名 日本子どもを守る会編	４．発行年 2018年
２．出版社 本の泉社	５．総ページ数 190
３．書名 日本子どもを守る会編：子ども白書2018	

１．著者名 横山恵子、蔭山正子	４．発行年 2017年
２．出版社 明石出版	５．総ページ数 215
３．書名 精神障がいのある親に育てられた子どもの語り	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	蔭山　正子 (KAGEYAMA Masako)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関